

2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年11月14日

上場会社名 株式会社フィスコ 上場取引所 東  
 コード番号 3807 URL <https://www.fisco.co.jp/>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 中村 孝也  
 問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 岡本 純子（TEL）03（5774）2440  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2023年12月期第3四半期の業績（2023年1月1日～2023年9月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	400	—	△399	—	△313	—	△302	—
2022年12月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

  

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	△6.60	—
2022年12月期第3四半期	—	—

（注）当社は、2022年12月期は連結業績を開示しておりましたが、2023年12月期第3四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、2022年12月期第3四半期の経営成績（累計）及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

（注）当第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	2,690	859	31.8
2022年12月期	3,812	2,053	53.6

（参考）自己資本 2023年12月期第3四半期 857百万円 2022年12月期 2,046百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2023年12月期	—	0.00	—	—	—
2023年12月期（予想）	—	—	—	3.00	3.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	660	—	△410	—	△331	—	△314	—	△6.87

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

（注）当社は、2023年7月1日付にて連結子会社であった株式会社フィスコ・コンサルティングを吸収合併したことにより、連結子会社がなくなることから、2023年12月期（通期）は個別決算による開示となりますが、業績予想の対前期増減率は比較対象が異なるため記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年12月期3Q	45,908,222株	2022年12月期	45,908,222株
2023年12月期3Q	91,702株	2022年12月期	91,701株
2023年12月期3Q	45,816,521株	2022年12月期3Q	45,714,404株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、「添付書類」3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

当社は、2023年7月1日付で連結子会社であった株式会社フィスコ・コンサルティングを当社に吸収合併いたしました。これにより、2023年12月期第3四半期累計期間より従来連結で行ってまいりました開示を単体での開示に変更いたしました。なお、当第3四半期累計期間は、単体決算初年度にあたるため、前年同四半期の数値及びこれに係る対前年同四半期増減率等の比較分析は行っていません。

当第3四半期累計期間(自2023年1月1日至2023年9月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による規制が徐々に緩和され、経済活動も正常化へ向かっております。一方で、為替市場の円安進行やロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う物価の高騰等が継続しており、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社の情報サービス事業と関連性の高い国内株式市場におきましては、2023年3月米欧金融機関の破綻や経営危機を受けて世界的な金融システム不安が高まり、大幅な下落を見たものの、米欧で金融機関への救済措置が相次いで発表され金融システム不安が後退しました。2023年6月には米連邦政府の債務上限危機が収束したことなどにより米国株式市場が上昇基調になりました。2023年8月中国不動産大手の破綻申請を受けて中国経済への不安が高まったことから下落し、米連邦準備制度理事会(FRB)による金融引き締めが長期化すると観測から米長期金利が上昇したことを受けて米国株式市場が軟調な展開となり、日本株式市場も米国株式市場の下落を受けて軟調な展開となりました。

また、暗号資産市場も、米連邦準備制度理事会(FRB)による金融引き締めが長期化すると観測から全体的に軟調な展開となりました。暗号資産は、今後、送金や決済などの手段としてだけでなく、あらゆる組織や企業、個人が価値を交換する手段となり、メタバースやゲームの世界、もしくはコミュニティの中での流通など、新たな価値・用途も生まれ、大きく普及していくことが予想されます。

このようなマクロ経済動向のなか、当社は2023年3月24日付「事業計画及び成長可能性に関する事項」において長期的な成長目標として、既存事業をベースに、フィスコブランド活用並びに新規事業(M&Aの活用)により、事業規模拡大を目指してまいります。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は400百万円、売上原価は315百万円、売上総利益は85百万円となりました。販売費及び一般管理費は、484百万円となり、営業損失は399百万円となりました。

営業外収益で匿名組合投資利益76百万円を計上したことなどにより、経常損失は313百万円となりました。

当第3四半期累計期間の四半期純損失は302百万円となりました。

なお、当第3四半期累計期間におけるセグメントごとの業績は、次のとおりであります。

#### ① 情報サービス事業

情報サービス事業金融・経済情報配信サービス分野におきましては、法人向けリアルタイムサービス及びアウトソーシングサービスが前期比で減少しています。また、フィスコブランドを活用したプラットフォームの利用に暗号資産の国内における売買低迷が影響し、広告売上が減少しました。この結果、売上高は251百万円となりました。

上場企業を対象としたIR支援及びIRコンサルティングサービス分野におきましては、引き続きIRを積極化する企業ニーズを受けて、中核サービスであるスポンサー型アナリストレポート(フィスコ企業調査レポート)の新規受注が底堅く推移しておりますが、統合報告書などの受注が振るわなかった結果、売上高は354百万円となりました。この結果、当第3四半期累計期間の売上高は606百万円となり、セグメント利益は85百万円となりました。

#### ② 広告代理業

広告代理業分野では、従来からの新聞・雑誌を主体としたビジネス媒体による定期広告出稿、YouTubeでの配信を前提とした動画制作は順調に推移しているほか、9月にはスポットではあるもののインバウンド関連メディアへの広告出稿受注が売上に貢献いたしました。ただしHPのコンテンツ更新は月次レギュラー化しているものの案件数減少・小規模化の傾向は続いています。

また制作案件対応および開発に向けた人員増により一般管理費増となっておりますが、今後クリエイティブ分

野での新規開発に向けた商品・サービス力の強化を継続しております。この結果、売上高は36百万円となり、セグメント損失は3百万円となりました。

③ 暗号資産・ブロックチェーン事業

暗号資産市場は、保有する暗号資産の評価損などにより、売上高は△303百万円、セグメント損失は304百万円となりました。

④ その他

その他では、今年新設した投資銀行事業における新規事業として、投資アドバイザリーサービス売上により、売上高は61百万円、セグメント利益は53百万円となりました。

また組成したバリューアップファンドのクロージングに伴う営業外収益として76百万円を計上いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比して1,121百万円減少し、2,690百万円となりました。これは、主に保有する投資有価証券に係る株式評価差額金の計上により、投資有価証券が614百万円減少したこと、暗号資産の評価損により、暗号資産が303百万円減少したこと及び現金及び預金が193百万円減少したことなどによるものです。

(負債)

負債につきましては、前事業年度末に比して72百万円増加し、1,831百万円となりました。これは、短期及び長期借入金が64百万円増加したこと、買掛金の7百万円減少及び契約負債が15百万円増加したことなどによるものであります。

(純資産)

純資産につきましては、前事業年度末に比して1,194百万円減少し、859百万円となりました。これは、利益剰余金が440百万円減少したこと、その他有価証券評価差額金が748百万円減少したことなどが主たる要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期におきましては、2023年11月14日に「非連結決算への移行、2023年12月期通期個別業績予想および営業損失等の計上に関するお知らせ」で公表いたしましたとおり、通期業績予想を修正しております。詳しくは、2023年11月14日公表の「非連結決算への移行、2023年12月期通期個別業績予想および営業損失等の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	295,760	102,648
売掛金	134,847	205,667
前払費用	9,289	14,191
仕掛品	6,566	5,985
暗号資産	786,337	482,747
短期貸付金	-	20,878
関係会社未収利息	123	-
その他	44,040	15,980
流動資産合計	1,276,965	848,101
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	413	388
工具、器具及び備品(純額)	19,137	18,386
有形固定資産合計	19,550	18,775
無形固定資産		
のれん	26,582	13,291
ソフトウェア	29,470	59,510
その他	24,940	1,983
無形固定資産合計	80,992	74,785
投資その他の資産		
投資有価証券	2,319,854	1,705,323
長期貸付金	48,923	20,000
関係会社長期貸付金	1,254,520	7,000
差入保証金	21,781	21,618
その他	21,750	21,750
貸倒引当金	△1,232,016	△26,550
投資その他の資産合計	2,434,813	1,749,141
固定資産合計	2,535,356	1,842,702
資産合計	3,812,322	2,690,803
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	34,221	27,212
短期借入金	39,694	114,700
1年内返済予定の長期借入金	10,816	-
未払金	41,428	37,859
未払法人税等	945	2,835
契約負債	26,130	41,143
預り金	5,788	8,268
その他	2,488	3,412
流動負債合計	161,512	235,430
固定負債		
繰延税金負債	1,581,083	1,581,083
退職給付引当金	1,691	2,204
その他	14,475	12,605
固定負債合計	1,597,250	1,595,893
負債合計	1,758,763	1,831,324

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,857	14,857
資本剰余金	1,597,208	1,597,208
利益剰余金	668,462	228,307
自己株式	△10,351	△10,351
株主資本合計	2,270,176	1,830,022
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△223,507	△972,451
評価・換算差額等合計	△223,507	△972,451
新株予約権	6,888	1,907
純資産合計	2,053,558	859,479
負債純資産合計	3,812,322	2,690,803

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	400,924
売上原価	315,620
売上総利益	85,304
販売費及び一般管理費	484,592
営業損失(△)	△399,287
営業外収益	
受取利息	778
貸倒引当金戻入額	5,000
匿名組合投資利益	76,865
その他	4,971
営業外収益合計	87,616
営業外費用	
支払利息	1,545
為替差損	59
暗号資産売却損	707
その他	0
営業外費用合計	2,313
経常損失(△)	△313,984
特別利益	
貸倒引当金戻入額	1,200,466
新株予約権戻入益	6,888
特別利益合計	1,207,355
特別損失	
抱合せ株式消滅差損	1,193,240
特別損失合計	1,193,240
税引前四半期純損失(△)	△299,869
法人税、住民税及び事業税	2,835
法人税等合計	2,835
四半期純損失(△)	△302,704



## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 当第3四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	情報 サービス 事業	広告代理業	暗号資産・ ブロックチ ェーン事業				
売上高							
外部顧客への売上高	606,316	36,907	△303,862	61,562	400,924	—	400,924
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	606,316	36,907	△303,862	61,562	400,924	—	400,924
セグメント利益又は 損失(△)	85,510	△3,635	△304,632	53,600	△169,157	△230,130	△399,287

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資銀行事業における新規事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△230,130千円は、各セグメントに帰属していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。